

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年1月21日(2010.1.21)

【公表番号】特表2001-521002(P2001-521002A)

【公表日】平成13年11月6日(2001.11.6)

【出願番号】特願2000-517723(P2000-517723)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/70	(2006.01)
A 6 1 K	31/194	(2006.01)
A 6 1 K	31/198	(2006.01)
A 6 1 K	31/715	(2006.01)
A 6 1 K	31/718	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 P	3/02	(2006.01)
A 6 1 P	9/00	(2006.01)
A 6 1 P	21/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/00	(2006.01)
A 6 1 P	25/16	(2006.01)
A 6 1 P	25/18	(2006.01)
A 6 1 P	25/28	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/70
A 6 1 K	31/194
A 6 1 K	31/198
A 6 1 K	31/715
A 6 1 K	31/718
A 6 1 K	45/00
A 6 1 P	3/02
A 6 1 P	9/00
A 6 1 P	21/00
A 6 1 P	25/00
A 6 1 P	25/16
A 6 1 P	25/18
A 6 1 P	25/28
A 6 1 P	43/00

1 1 1

【誤訳訂正書】

【提出日】平成21年11月16日(2009.11.16)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 1 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 1 9】

クレブス回路中間体の前駆体は、被験者への投与時に、生体により（すなわちインビボにおいて）クレブス回路中間体へと転換される化合物である。一般に、モノ-およびジ-アルキルシトарат(mono- and di-alkyl citrate)、アコニタート(aconitate)、イソシトарат(isocitrate)、ケトグルタレート(-ketoglutarate)、サクシネート(

succinate)、フマラート(fumarate)、マレート(malate)、およびオキサロアセテート(oxaloacetate)は、エステル結合が生体により容易に破壊されクレブス回路中間体を生じるので、望ましい前駆体である。他のエステル前駆体も、影響を受けた細胞への前駆体分子の侵入を増強する公知の技術を用いて開発されている。例えば、本明細書に参照として組入れられているヨコヤマ(Yokoyama)に付与された米国特許第5,739,117号は、脳細胞へより効果的に侵入する多様なグルコースエステル誘導体を開示している。ある好ましいクレブス回路中間体の前駆体は、生体によりオキサロ酢酸またはオキサロアセテート(oxaloacetate)へと転換される化合物である。この種の前駆体の例は、2-ケト-4-ヒドロキシプロパノール、2,4-ジヒドロキシブタノール、2-ケト-4-ヒドロキシブタノール、2,4-ジヒドロキシ酪酸、2-ケト-4-ヒドロキシ酪酸、アスパルテート(aspartate)、更には先に定義されたモノ-およびジ-アルキルオキサロアセテートを含む。アミノ酸アスパルテート(aspartate)は、アミノ基転移反応によりオキサロ酢酸へ転換される。